

発行：熊谷市立江南文化財センター

TOPICS

国宝「歓喜院聖天堂」へようこそ

平成 24 年 7 月 9 日（月曜）の官報告示にて、妻沼聖天山の本殿である「歓喜院聖天堂」が国宝として指定されてからまもなく半年を迎えようとしています。その間、テレビ、新聞、雑誌などで多く取り上げられ、極彩色の彫刻を目にしようと全国から多くの方々を訪れています。修理工事の終了後、平成 23 年 6 月に一般公開されてから、平成 24 年の 12 月には拝観者は 10 万人を超え、ますます活気を帯びています。

国宝指定後、行政と民間の垣根を越えて様々な人々やグループが協力し、妻沼聖天山周辺の活性化に向けて様々な催し物を行ってきました。特に、「縁結びの街」や「熊谷の名産品」などとタイアップした企画は好評を博しています。国宝のある街「熊谷」を積極的に PR していく試みは、更に盛り上がりを見せていくように感じられます。文化財の保護を念頭に置きながら、世界に向けて国宝「歓喜院聖天堂」の素晴らしさを情報発信できるよう努めてまいります。（聖天堂へのアクセスについては最終ページをご参照ください。）



第五回地域伝統芸能今昔物語

11 月 23 日、妻沼中央公民館にて埼玉県芸術文化祭 2012 地域文化事業「第五回地域伝統芸能今昔物語」を開催しました。約 700 名の来場者が、無形の文化財保持団体の 6 団体・芸能 8 団体、賛助出演 1 団体（熊谷祇園囃子）の計 15 団体による共演をじっくりと鑑賞されました。本年度は埼玉県芸術文化祭 2012 地域文化事業として開催され、伝統芸能を次世代に継承することを目的に、児童生徒を始めとした多くの若手の出演がありました。また、妻沼展示館において無形民俗文化財パネル展を開催し、市内外の伝統芸能や本年 3 月に市指定無形民俗文化財に指定された熊谷うちわ祭（熊谷八坂神社祭礼行事）についての紹介を行いました。（写真：市指定無形文化財「妻沼太鼓」）



『熊谷デジタルミュージアム』開設 1 年

平成 23 年 10 月にリニューアルして開設した『熊谷デジタルミュージアム』が、1 周年を迎えました。

本年度は、ハード面の改修として、江南文化財センターに設置した windows サーバーを、業者の光回線の rinax サーバーへデータを預ける運営方式としました。併せて、「歴史資料データベース」をオープンソース・データベースの MySQL に変え、閲覧・検索速度の向上を図りました。

ソフト面では、新しいコンテンツとして、文化財関連「コラム」の設置、「マップいろいろ」を設置して GoogleMap を利用した遊歩道の紹介、外部リンクで YouTube に動画の公開を始めました。既存コンテンツ内の充実としては、「熊谷の偉人」の人物追加、「PDF 文庫」の各種刊行物追加、「絵画室」の絵画追加、ブログ「熊谷市文化財日記」への記事投稿等を行っています。今後、江南文化財センターに加え、市史編さん室、図書館郷土資料室、妻沼中央公民館からの情報も加えてコンテンツの充実を図っていきますので、郷土熊谷を知る一助としてぜひご活用ください。



市内遺跡発掘情報

前中西遺跡 「弥生時代の方形周溝墓、古墳時代の竪穴住居跡を発見」

末広三丁目地内で、道路建設に伴う発掘調査を、10月31日から11月19日にかけて実施しました。調査面積は230㎡で、弥生時代の方形周溝墓、古墳時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡・溝跡等を検出しました。弥生時代の方形周溝墓は、周溝は深さ80cm、上面幅1m程の規模で、11m程の大きさを四隅が途切れる形で巡っています。調査の結果、前中西遺跡の南西隅まで弥生時代の墓域や、古墳時代の集落が広がっていたことを確認することができました。



調査風景（三角矢印が方形周溝墓の周溝）

宮下遺跡 「さらに西に広がる古代の集落を発見！」



10月から11月かけて、千代の江南台地に立地する宮下遺跡において、開発に伴う遺跡の詳細な内容確認のための試掘調査を実施しました。調査は、幅2mのトレンチを24本掘削して行い、その面積は約2639㎡で開発面積の約5%でした。調査により、主として奈良～平安時代（8世紀～10世紀）の集落跡の存在が確認され、竪穴建物跡11棟（竪穴建物跡の可能性のあるものも含めると33棟）の他、溝跡や土坑などが多数確認されました。また、これらの遺構は、現在の地表面から浅いところで約20cmの深さで確認されました。（写真：竪穴建物跡 右手の凸部がカマド）

遺跡は、起伏に富んだ地形につくられていて、おおよそ南北方向に2本の谷が入り、その谷を臨む高台に集落がつくられたことが判りました。なお、宮下遺跡は、平成20年度にこの度の試掘調査を行った東側で発掘調査を行っていて、やはり奈良～平安時代の集落が発見されています。

大竹遺跡 「幡羅郡家を支える典型的律令集落を発見か！」

11月から12月かけて、西別府の櫛挽(くしびき)台地に立地する大竹遺跡において、遺跡の保存目的の範囲内容確認調査を実施しました。調査は2か所の調査区を設定し、面積約270㎡の調査を行いました。

調査の目的は、遺跡の南方にある深谷市下郷遺跡から延びる幅6mの古代の道路跡の行方を探るものでしたが、残念ながら今回の調査では確認できませんでした。調査では、主として飛鳥～平安時代（7世紀末～10世紀後半）の集落跡の存在が確認され、竪穴建物跡（右上写真は遺物出土状況）11棟、掘立柱建物跡2棟などが確認されました。この集落は、遺跡の北側に広がる古代の幡羅郡家（郡役所）を支える周辺集落と考えられ、1棟の竪穴建物跡からは、挂甲(けいこう)という鎧の小札(こざね)片と考えられる鉄製品（右下写真）が出土しました。なお、この遺跡名の「大竹」は、「大館」(おおだち)とも考えられ、かつて大きな館があったとも想像でき、幡羅郡家との関係で興味深い地名です。



連載 くまがやの古墳群 ⑤ 肥塚古墳群「2種類の石材を使った石室がある特異な古墳群」

肥塚古墳群は、肥塚地区の妻沼低地（新荒川扇状地）上に所在する古墳時代後期から終末期にかけての古墳群で、現在16基が確認されていて、削平を受けたもの、消滅してしまった古墳が多数です。

古墳は、主に雀宮団地内から肥塚区画整理地内にかけて分布し、全て円墳です。民間の開発や区画整理事業に伴い発掘調査が行われています。調査された円墳である肥塚古墳群第11～13号墳は、調査当時墳丘がよく残り、第11号墳は円筒埴輪や形象埴輪が出土し、第12号墳（右写真）・第13号墳は、遺体を葬った横穴式石室という施設の遺存状況が比較的良いものでした。横穴式石室は、いわゆる胴張型横穴式石室というタイプのもので、遺体を安置した玄室の平面形が、三味線の胴のような形をしているのでこう呼ばれています。石室は河原石だけで乱石積していて、耳環（耳飾）、直刀、刀子（とうす）、鉄鏃（やじり）、人骨片などが出土しています。



肥塚古墳群には、榛名山の二ツ岳が噴火した時（6世紀初頭）に噴出した角閃石安山岩の転石を利根川から採取してきて、きれいに加工して截組積(きりくみつみ)した石室の古墳も存在し、石材が河原石・角閃石安山岩と2種類の石室があり非常に興味深く特徴的な古墳群です。

文化財センター通信

企画展「憧れの青と白のうつわ展」開催中！

現在、3月までの会期で、市立熊谷図書館3階郷土資料展示室において、市内の遺跡から出土した「三彩陶器(さんさいとうき)」、「緑釉陶器(りょくゆうとうき)」、「灰釉陶器(かいゆうとうき)」に焦点をあてたミニ展示会を開催中です。これらの器は、まとめて施釉陶器(せゆうとうき)と呼ばれ、奈良～平安時代に当時の貴族たちが、それぞれ中国の「唐三彩(とうさんさい)」、「青磁(せいじ)」、「白磁(はくじ)」の色彩に憧れてつくらせたといわれています。それにあやかり、本企画展のタイトルには代表となる色彩である「青」と「白」を使用しました。市内遺跡において、施釉陶器が出土する遺跡の多くは、官衙跡(かんがあと)、寺院跡、祭祀跡など役所的や祭祀的な要素が色濃い特殊な性格をもつ遺跡で、これは当時これらの器が一般庶民の持ち得なかった器であった証明ともいえます。ぜひ、この機会に当時の貴族たちの気持ちに想いを馳せてみてはいかがでしょうか。



直実マップを作成しました。



熊谷直実(1141～1207?)は武蔵国・熊谷館の出身といわれている武将です。その前半生は、鎌倉武士として活躍し源頼朝をして「日本一の剛の者」と言わしめるほどでした。しかし、後半生では武士としての無常を感じて出家をし、法力房蓮生と名乗り、有縁無縁すべての衆生と共に蓮の台に生まれんことを願い、念仏三昧の日々を過ごしました。法然上人をして「坂東の阿弥陀仏」と言わしめるほど徳の篤い高僧であったと伝えられています。

このマップでは、熊谷市の中心市街地に点在する直実公ゆかりの地を巡る熊谷駅コースと、直実公の娘である玉都留姫・千代鶴姫の逸話が残る寺院を訪ねる大原コース、熊谷氏と久下氏が領地争いをした地として知られる「熊久の境」周辺を巡る久下コースの3つの散策コースを紹介しています。

熊谷市役所7階の商業観光課と、江南文化財センターで配布しておりますので、マップを片手に歴史散歩を楽しんでみてはいかがでしょうか。

星溪園県民の日茶会—竹井澹如没後100年

埼玉県民の日の11月14日、紅葉が始まる星溪園にてお茶に親しむ会を開催しました。立正大学裏千家茶道部、熊谷女子高校茶道部(表千家)、熊谷西高校茶道部(江戸千家)の協力を得て、星溪園内の三棟の建物において茶席を設け、のべ約270名の来場者が茶道のお点前を鑑賞しながら、お菓子と温かいお抹茶を堪能されていました。

なお、平成24年は、星溪園を造立した竹井澹如の没後100年に当たることから、本茶会を100年忌茶会として位置付け、熊谷の近代を築いた澹如への思いを馳せながら、穏和な時間が流れるお茶会となりました。また、これに併せて、園内の積翠閣ギャラリーでは、竹井澹如の人物を紹介するパネルやゆかりの品々を新たに展示し、多くの来場者が澹如について知る機会を提供しました。



文化財探訪 成田氏の文化財—映画「のぼうの城」公開

11月、映画「のぼうの城」が全国公開され、大きな反響を呼んでいます。石田三成が率いる2万人の軍勢に、「でくのぼう」こと成田長親(役・野村萬斎)が率いる忍城軍が戦いを挑んだ史実に基づく歴史大作映画です。成田氏が忍城に移る前の本拠地が熊谷であったことから、市内には成田氏に関連する文化財が多く残されています。

天喜元年(1053)～延徳3年(1491)の間、成田氏の初代助高から9代親泰が居をかまえた館跡が「成田氏館跡」(市指定史跡)です。また成田氏の菩提寺であった龍淵寺(上之)には、「成田氏系図」や「成田氏分限簿」、「成田記」などの市指定有形文化財や、成田氏歴代の当主を葬った「成田氏の墓」(市指定史跡)があり、成田氏との深いつながりを知ることができます。また、天文21年(1552)に、忍城主の長泰が妻沼の聖天堂を再興した際に奉納した「紵絲斗帳(ちよしとちょう)」(写真:埼玉県立歴史と民俗の博物館寄託)も熊谷にゆかりのある貴重な文化財です。それぞれの文化財の概要や所在地については、熊谷デジタルミュージアム内の文化財マップをご参照ください。



文化財コラム 古代との遭遇・第11話

米作りの初め③ー横間栗遺跡③ー


1号再葬墓の奥、北約7.5mの位置に3号再葬墓が検出されました。60×52cm、深さ30cmの規模をもつ土坑に西向きに大型壺が倒れ、中に3点の小型壺や管玉が入れられていました。本再葬墓群の中では中間的な様相を示しています。何故、米作りの開始時期に合わせたように再葬墓が営まれたのでしょうか。

再葬墓というのは、死者を一度土葬し、一定期間の後に掘り出し、再度埋納する骨を選択する。その後水洗か火葬かによって清め、壺等へ納骨し、別の土坑に埋納する、という一連の祭祀行為をさします。つまり、一定期間の後ということとは、ただの死者ではなく、祖先になっているわけです。そこで当時の人々が、米作りの開拓に当たった祖先がもつ強い力を頼んで、安定した収穫を得ようと願ってこのような墓制と祭祀形態をとったと思われます。

こうした再葬墓は、祭祀そのものの意味合いがなくなったのか、あるいは広範囲に共通する新しい方法が用いられることになり、強制的に終了させられたのか、弥生時代中期前半に突然終了します。



◇ 国宝を見に行こう！ 妻沼聖天山本殿「歓喜院聖天堂」のご案内

歓喜院聖天堂	場所・問合せ	交通アクセス	拝観料	公開日時
	住所： 熊谷市妻沼 1627 電話： 048-588-1644 (寺務所)	バス利用の場合： JR熊谷駅：朝日バス(6番乗り場) ～太田駅行・妻沼聖天前行・西小泉駅行～「妻沼聖天前」下車。 ゆうゆうバス(市内循環バス)： グライダー号・ムサシトミヨ号、 「妻沼聖天前」下車。	700円 (小学生以下は無料) ガイド解説付き 境内入場は無料	年中無休 10時から 16時30分 (受付は16時まで)

◇ 埋蔵文化財を保護するための届出が必要な場合があります。

市内には約350の遺跡や古墳群が確認されています。工事や開発を行う場所がこれらに該当する場合には、埋蔵文化財を保護する対策が必要です。まず、文化財保護法に基づき届出等を提出していただき、工事内容を確認します。必要がある場合は、遺跡の有無・深さ等を把握するために「試掘調査」を行います。そして、遺跡が破壊されてしまう場合には、記録保存を目的とした「発掘調査」を行います。届出等の様式については、熊谷市ホームページ内の「申請書ダウンロード」をご参照ください。詳しくは、江南文化財センターまでお問い合わせください。

編集後記

平成24年は、箱田氏館跡での発掘成果、熊谷うちわ祭(熊谷八坂神社祭礼行事)の市指定無形民俗文化財への指定、そして歓喜院聖天堂の国宝指定など、市内の文化財が多くのメディアに取り上げられました。文化財は保護の対象であると同時に、皆様に広く情報発信し、更なる保護と活用に向けた啓発を行っていくことが求められています。

現在、様々な分野において、対外的に物事を解説し、普及啓発させることを意味する「アウトリーチ」という言葉が積極的に使われています。文化財センターにおきましても、様々な企画や事業を通じて、文化財を身近に感じてもらい、未来に継承するためのアウトリーチの機会を提供しています。どうぞ、気軽にお声掛けください。



発行：平成25年1月1日

熊谷市立江南文化財センター(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係)

〒360-0107 熊谷市千代329番地

電話 048-536-5062 FAX 048-536-4575

メール c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

HP:「熊谷デジタルミュージアム」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>

文化財の紹介、ブログ「熊谷市文化財日記」、 「BUNKAZAI 情報」 カラー版などを豊富に掲載